

報告書

実施日時	令和3年3月20日(土) 10:00~12:00	場所	なか区民活動センター 研修室I・II及びミーティングエリア
講座名	「社会教育士」の可能性を知る～情報提供と交流会～		
対象者	社会教育に携わっている方、関心がある方		
定員	20名		

参加者:32名

【内訳】一般参加者25名(会場内20名 ZOOMを利用してミーティングエリアでの配信5名)

講師2名、運営委員5名

参加者とは別に一時託児協力者(1名)お願いし、保育児童2人

【報告】活動団体のメンバーから、地域の学習を推進するのに十分な研修や学習機会がない実態があり、今回、教育委員会社会教育委員会議の提言が昨年11月に示され活動団体の会員が社会教育士をとろうという機運が高まり、まず社会教育士の学習会を行い、広く周知をしたいとのことから公開講座を開催。

講座は2部制をとり、第一部では、現在、横浜市教育委員会から文部科学省総合教育政策局教育人材政策課へ出向中の柴 諭氏から、社会教育士への期待と題して文科省で動画配信をしている「社会教育士」についてのお話がありました。

横浜市教育委員会生涯学習文化財課の松澤 到氏から、提言の内容をわかりやすく、また、経緯など概要説明がありました。

第二部では、参加者が第一部での話を聴いて考えたことなど、グループごとに話す機会を設けました。

最後に、活動団体代表より、「参加の皆さまの多くは日々の現場での活動にエネルギーを注いでおられ、制度や提言の話は少し距離があるかもしれないが、自分の仕事や活動が地域や社会の中でどう位置づけられ、つながっているか感じられたら良かったと思う。そういう自分の仕事や活動と関係づけることをしないと提言や方針が出されても実現しない。私たちの研究会は実践のレベルで方針がどのように関わっているか、ということ意識しながら実践をすすめていく努力をしている。」という挨拶があり、自身の仕事の意識改革につながりました。

アンケート内容:

- ・社会教育士'の制度をどのように活かしていくのか、課題や考え方の方向性が見えた
- ・もっともっと社会教育士について知りたいと思いました。
- ・地域を含めた社会全体のコーディネートをする人材は前から必要だと感じていました。社会教育士がそれを担う人材だという事がよく分かりました。

▼第二部グループでの話し合い
つい立をしてコロナ対策をとりました。

▼一時託児の保育の様子



▶第一部の様子

